

## 第2章 1986年度岡山大学構内遺跡調査報告

## 1 調査の概要

調査室においては、大学構内における掘削工事に際して、事務局施設部企画課を通して行政的手続きを行った上で、発掘・試掘・立会調査に分けて調査を実施している。

現在までのところ、その調査対象は津島地区と鹿田地区が中心となっている。特に、鹿田地区ではその大半が周知の遺跡（鹿田遺跡）の範囲内に指定されており、ほとんどの掘削工事に対して届出を出した上で対応している。また、津島地区においても新たな遺跡の確認が進んでいることから、届出の有無に係わらず、少なくとも立会調査を行っている。

1986年度は発掘調査3件（津島地区2件・鹿田地区1件）、試掘調査2件（津島地区）、立会調査22件（津島地区9件・鹿田地区13件）を実施した。立会調査については、長期間にわたり数カ所に及ぶ工事についても一連の工事に伴うものは1件として数え、詳細は表1に挙げた（表1・図版1～4）。

表1 1986年度における調査一覧

番号	種類	所属	調査名称	調査地区	調査期間	掘削深度(m)	備考
①	発掘	医短	校舎新営予定地	鹿田 CN～CU 27・28 CT～CX 19～27 CV 16～26 CZ～DD 16～25 DE・DF 22・23	6.1～11.29	2～3	調査面積は2320㎡ 古代～中世の集落址
②	〃	学生	男子学生寮改築予定地	津島北 AV 98・00 AW 98～01	12.1～'87.3.31	1.7	調査面積は1550㎡ 近代～古代の水田址 調査継続中
③	〃 試掘	〃	屋内運動場新営	津島南 BF・BG 09	'87.1.19～1.22 11.25	2.4 1.2～1.7	調査面積は合計約70㎡ 弥生時代前期溝・中世 河道検出
④	〃	理	総合大学院新営	津島北 AY・AZ 07	'87.1.13～1.22	1.6～3.2	縄文時代中期末～後期 の遺構・遺物検出
⑤	立会	学生	第2体育館屋内消火栓配管改修	津島南 BE 10	4.3	0.7～0.8	造成土中
⑥	〃	医短	樹木移植	鹿田 CS～CX 18～26	4.14	1.0～1.5	中～近世水田層確認 造成土約1m
				〃 CQ・CU・CW 15	11.27・28	1.3	中～近世水田層確認 造成土約1m
				〃 CM 12, CH 33 CN～CU 13	'87.1.16・17	0.8～1.0	造成土中
⑦	〃	文	グラウンド拡張	津島北 AU 16・17	5.22	0.5	〃

## 1986年度岡山大学構内遺跡調査報告

番号	種類	所属	調査名称	調査地区	調査期間	掘削深度(m)	備考	
⑧	立会	医病	共同溝排水管理設	鹿田 CI ~ CL 13	6.10	0.6	造成土中	
⑨	〃	医	排水・污水管修繕	〃 BM 45	6.26	1.2	造成土0.8m	
			記念会館東側污水管改修	〃 BI ~BN 45	'87.1.14~1.23	0.8~1.3	中世包含層・土器片確認, 造成土0.8m	
⑩	〃	医病	看護学校便所給水管改修	〃 CR・CS 69 CT 69~76, CX 75 CU ~ CW 76	7.30	0.4	造成土中	
⑪	〃	〃	西病棟受水槽設置に伴う基礎取設	〃 BI 30	8.23	0.45	〃	
⑫	〃	教養	校舎新営	津島南 BE 08・09	9.3~9.5 9.15~9.22	2.3	中・近世土器片・溝確認, 造成土1.3m	
⑬	〃	医短	校舎新営設備	電気	鹿田 BI 10, CW 28 DC 29	10.11	0.5~0.8	造成土中
				空調設備	鹿田 CN・CO 26・27 CK ~ CN 26	10.13・14 10.18	1.0	〃
				給排水, その他	〃 CK 27, CK ~ CV 28 CV 26・27	10.12~14 10.19	1.2	中世包含層 造成土0.8~0.9m
⑭	〃	文	樹木移植	津島北 AU 04・16・17 AV 15	10.22・23	1.0~1.6	造成土中	
⑮	〃	医病	東西病棟用酸素ガス送気配管屋外部分沈下修理	鹿田 BZ 13		1.0	既設配管内	
⑯	〃	医	記念会館給水管修繕	〃 BE 47	12.8	0.5	造成土中	
⑰	〃	医	内田宿舍跡臨時駐車場排水溝埋設	〃	'87.1.6	0.3	〃	
⑱	〃	医病	看護学校南校舎周辺排水管内清掃	〃 CU ~ CG 68 CV・CX 68~73	'87.1.13	0.7	〃	
⑲	〃	医	正門通り舗装修繕等 構内環境整備	東西側溝	〃 AG ~ AZ 51 AH ~ BD 52 BA 46~51 BD 45~52	'87.1.16~2.28	0.7	〃
				歩道	〃 AG・AH 53 AV ~ BA 53 AI ~ AV 54		0.4	〃
				外灯	〃 AL・AQ 51, AL 54		0.8	〃
				駐車場舗装	〃 AL 64~67 AM・AN 64・65		0.3	〃
⑳	〃	文	グラウンド改修	津島北 AV 16・17	'87.1.27・28	3.5	造成土1.5m	
㉑	〃	学生	ハンドボールコート新設	津島南 BG 08	'87.2.7~2.12	0.2~2.0	黒色土確認 造成土0.8m	
㉒	〃	文	動物実験室新設	津島北 AX 16	'87.2.9	0.95	造成土0.7m	
㉓	〃	医短	電柱埋設	鹿田 DF 27	'87.2.19	2.0	〃 1.1m	
㉔	〃	〃	校舎新営その他(護岸及び囲障)	〃 CM ~ CZ 12~14	'87.2.24・25	2.5~3.0	中世包含層 造成土0.8~1.0m	
㉕	〃	学生	野球場防球ネット取設	津島南 BB ~ BD 07	'87.3.2	2.0	造成土0.9m	
㉖	〃	教養	校舎新営に伴う電気配管	〃 BF 07・08	'87.3.2	1.8	中世包含層 造成土0.9m	

## 2 発掘調査

- ① 医療技術短期大学部校舎新営に伴う発掘調査（鹿田地区 CT～CX19～27, CY16～26, CZ～DD16～25, DE・DF22・23, CN～CU27・28区）

### 調査の経過

岡山大学構内に新たに医療技術短期大学部を新設するに当たり、校舎新営予定地に1986年3月に試掘調査を行ったところ、中世を中心とし、一部古代に遡る包含層の存在が推定され、1986年度に発掘調査を実施することとなった。

調査期間は本体工事部分（CT～CX19～27, CY16～26, CZ～DD16～25区）が1986年6月1日～10月31日の5ヶ月間、南北の共同溝工事部分（DE・DF22・23, CN～CU27・28区）が11月1日～11月29日の1ヶ月間である。調査面積は前者が2,075㎡、後者が245㎡を計り、総面積は2,320㎡である。調査員は本体工事部分を4～5名、共同溝部分を2～3名が担当した。

調査終了後、現在整理途上にあるため、以下に述べる概要は暫定的なものである。

### 層序と地形

鹿田遺跡では1983～84年度に発掘調査を行った外来診療棟予定地において基本層序を設定した。<sup>(註1)</sup>第Ⅰ層（造成土）、第Ⅱ層（青灰色砂質土・近代の水田土壌）は共通するが、第Ⅲ層（中世包含層）は本調査における3～5層に、第Ⅳ層が6層に対応すると推定される。

次に、3層以下について各層の特徴を述べたい（図1）。

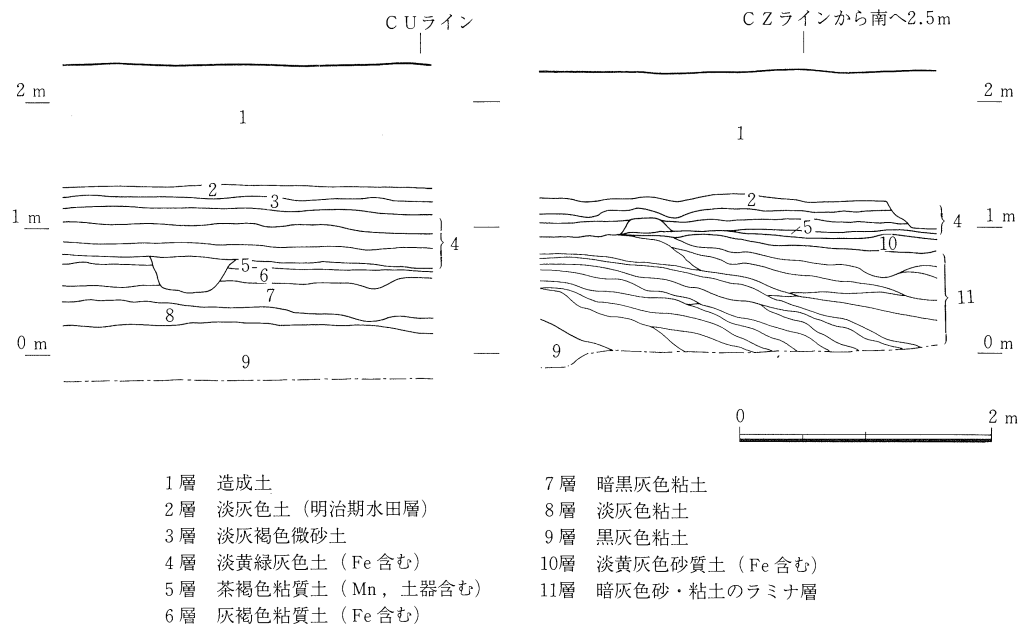


図1 医療技術短期大学部予定地 南北土層断面図（縮尺1/60）

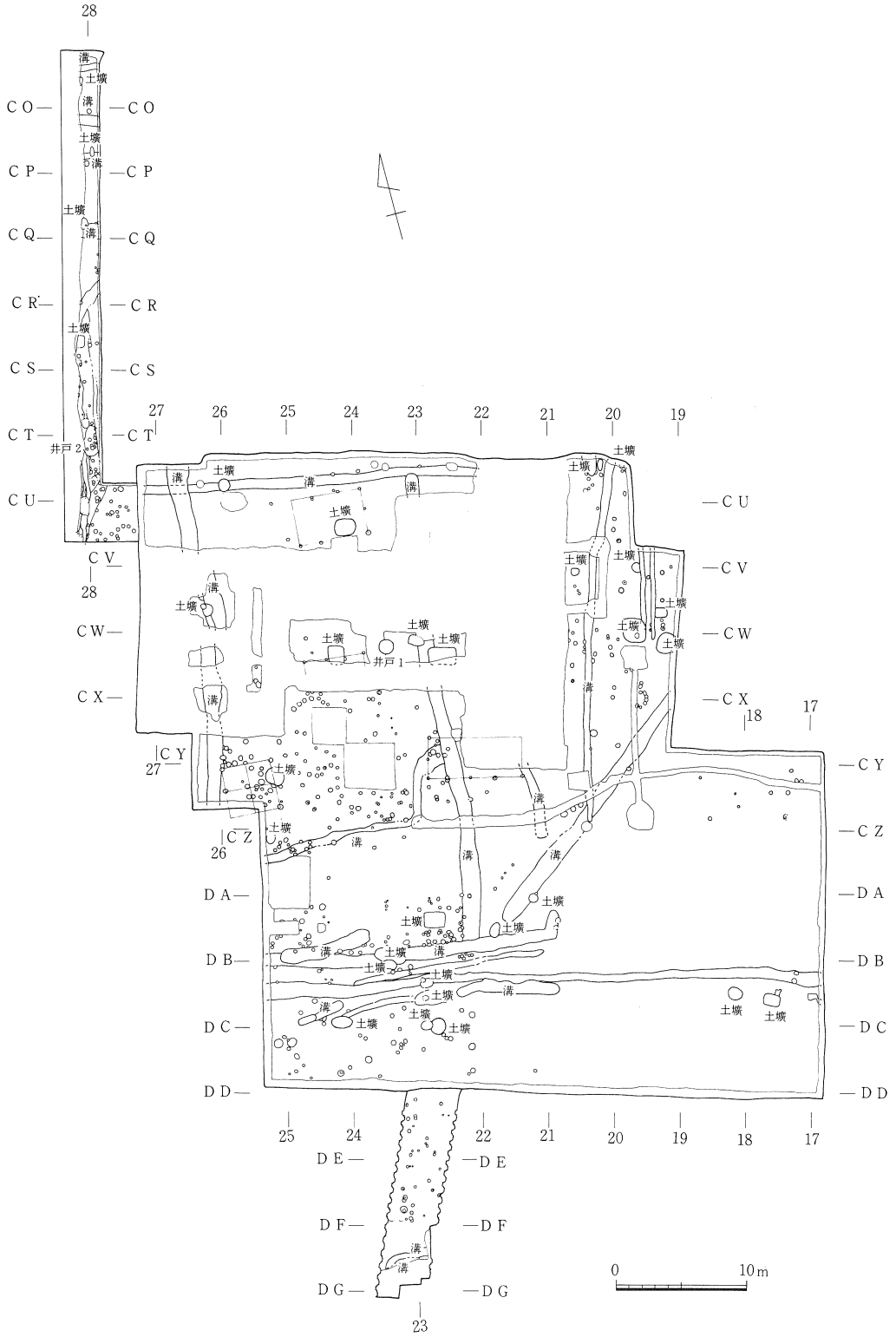


図2 調査区全体図 (縮尺1/500)

3層は比較的薄い層で確認されない部分もある。調査区内では水平堆積を示し水田土壌の可能性が考えられる。4層は調査区全域に認められる比較的厚い層で、二分あるいはレベルの高い部分では4層と5層間に漸移層として三分される場合もある。基本的には鉄分の沈着が特徴であるが、レベル的に高い部分などではマンガンの沈着も増加する。水平堆積をし、鉄分・マンガンの互層構造も認められ、水田土壌と判断される。5層も調査区全域に認められる。全体的には明瞭な層であるが、部分的に薄く非常に不明瞭となる場合もある。マンガンの沈着が特徴である。6層以下については調査区のほぼ中央、C Zラインの北側と南側とで様相を異にする。北側では6層は強い粘性を示し、7層以下は無遺物の粘土層となる。南側では5層直下の10層は砂質が強く、南に向かって厚さを増し、堆積終了後はほぼ平らな地形となる。11層は流水の影響による灰色粘土と砂の互層、あるいはラミナ状堆積を示す。このようにC Zライン周辺を境に北側に高い地形が、南側に低い地形が想定された。

また、南の共同溝部分ではD Eライン以南に、北の共同溝部分ではC O～C Rライン間に各々自然流路の存在を推定させる状況を確認した。

#### 本体工事部分の概要（C T～C X 19～27, C Y 16～26, C Z～D D 16～25区）

本調査区内では平安時代末～中世に属する掘立柱建物4棟・井戸1基・溝状遺構約10条・土壌約25基等の遺構が検出された。遺構は北半部に集中する傾向が認められ、C Dライン以南は溝以外の遺構数は少ない。

掘立柱建物は東西に主軸を有し、2×2間の総柱建物1棟と2×3間の建物2棟、やや主軸方向を異にする2×4間の建物1棟の合計4棟があるが、その他にピットも数多く検出されているため実数は増加する可能性が高い。井戸は掘立柱建物群中に位置する。溝は東西方向のもの6層以下で検出されたものが多く、C Zライン以南の低い部分に集中する傾向が強い。いずれも無遺物であり、掘り方も非常に不明瞭であることから自然流路の可能性も考えられる。5層検出の溝は南北方向が中心で、東西方向ではD Bラインを走る1条がある。東半部では出土遺物量は少ないが、建物・井戸等が存在する西半部では多くの遺物を包含し埋土の汚れも強い。また、東半部では溝は東北から南西に走るが、この方向は東方に位置する自然河道からの流路方向と一致する。本溝以南に遺構がほとんど未検出であることから、中世でも、この部分は水の影響が及ぶ低い地形であったことが推察される。

以上のように、本調査区では平安時代までは集落の存在を推定させる遺構・遺物は認められず、鹿田遺跡全体では低い部分に属し、南半には自然河道が存在する湿地帯部分であったと考えられる。平安時代末から中世に入ると、遺構は密とは言えないが、溝で区切られた狭い範囲に建物・井戸が認められ、調査区北半部に小規模な集落が進出していたと想定される。そして、中世後半から近世には水田化され、現在に至ると考えられる。 (山本)

北共同溝部分の概要 (CN~CU27・28区)

本調査区内では、中世に属する井戸1基、溝状遺構約11条、土壌約4基、ピット約70基等が検出された。遺構はCRライン以南に集中し、それ以北においては、遺構密度はかなり低い。このような状況は、CR~COラインにかけては6層以下において灰色粘土と砂層の堆積が観察されることから自然流路らしきもの影響とも考えられ、本調査区内に関して言えば、自然流路上に位置する北半部は中世段階において立地条件が良好ではなかったと思われる。

井戸は5層で検出された。径2.0~2.4m、深さ1.8mを測り、上方の一部は攪乱を受けているが、埋土下層からは土師質椀(図4-1・2)、須恵質鉢(同-3)が出土した。時期は12世紀前半に比定される。溝はCRライン以北は東西方向が主で、検出面はいずれも6層以下であったため自然流路の反映と考えられるかも知れない。南半部では4~5層にかけて南北方向の溝が重なって検出された。

以上のように、本調査区では本体工事部分で確認された中世の集落がほぼCRライン付近まで広がっていたことが判明し、北東・南西方向へも広がるであろうと推測できる。

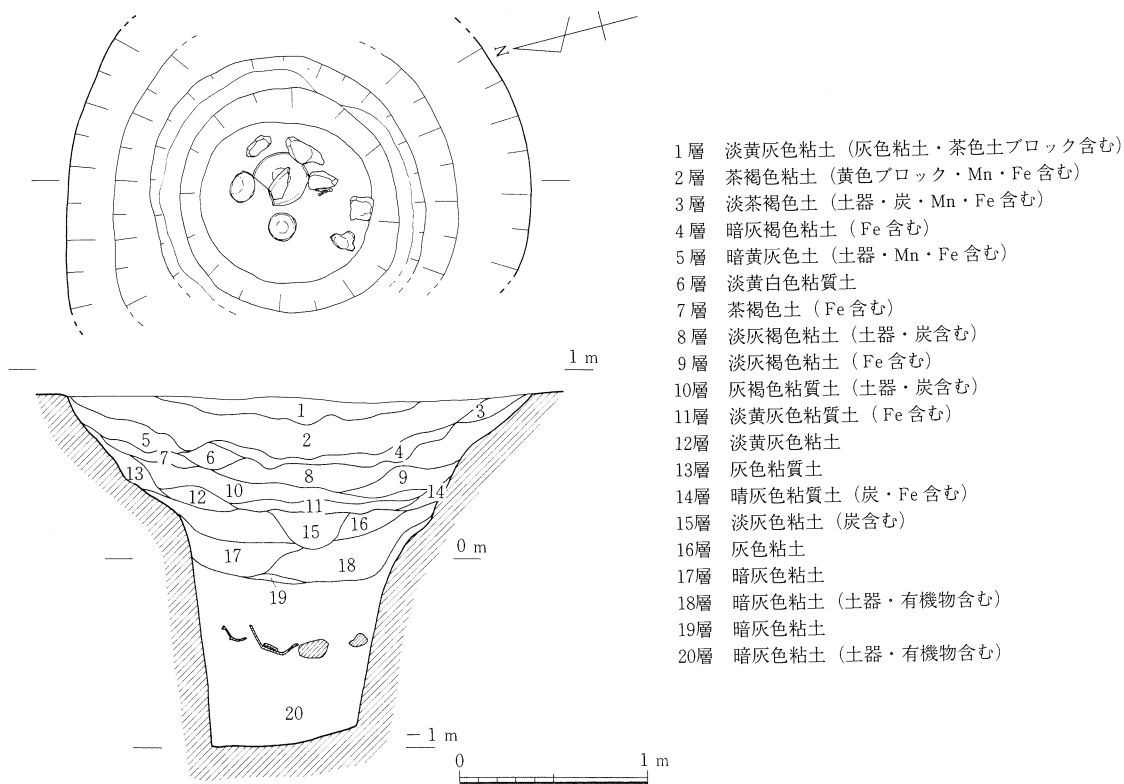


図3 井戸2 平・断面図 (縮尺1/40)

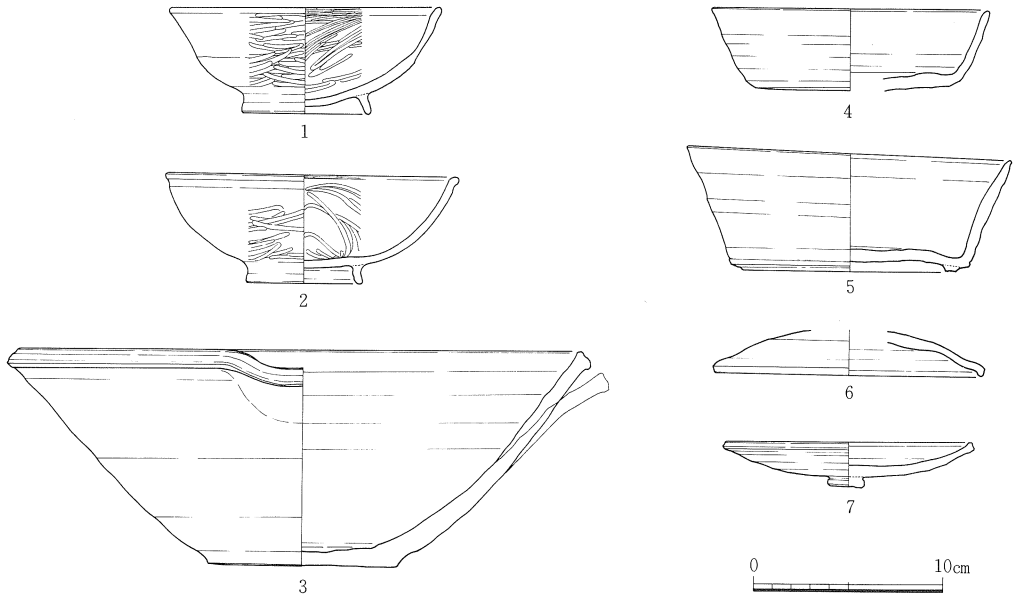


図4 共同溝部分出土遺物 (縮尺1/4)

#### 南共同溝部分の概要 (D D～D G 22・23区)

本調査区内では、中世に属する遺構としては溝状遺構2条、ピット約30基が検出された。

溝は、いずれも調査区南端部を東西に走るが、後世の工事の際に生じた断層が確認されたため、その影響で落ち込んだ可能性が高い。ピットのほとんどは5層で検出され、掘り方上部に拳大の河原石が見られるものもあったが、掘立柱建物を想定することは出来なかった。

本調査区内でも本体工事部分南半部と同様の土層堆積状況が認められたが、11層においては砂と粘土が互層になりつつ緩やかに落ち込む状況を確認した。本調査区のほぼ全域にわたってかなり大きな自然流路の存在が推定できる。この自然流路内にはD Dラインの約2 m南からD Gラインにかけて規則的に、あるいは無作為に打ち込まれた径約10cm・長さ0.5～2 mの木杭が約100本検出された。また、23ラインに沿って、径約30cm・長さ約2～3 mの他とは区別される大形の6本の木杭も並ぶようにして検出された。うち1本にはほぞ穴がある。これらの木杭は打ち込まれ方・配置等によっていくつかのグループに分けられるが、それらは一体化した水利施設として利用されたと考えられる。具体的な性格については現在検討中である。また、自然流路はその堆積状況からみて短期間において流路を若干変えたと思われる。尚、河床から須恵器高杯、須恵器杯(図4-4・5)、須恵器杯蓋(同-6)、転用硯(同-7)等が出土していることから、この自然流路は奈良～平安時代に存在したと考えられる。(松岡)

註1 岡山大学埋蔵文化財調査室「岡山大学構内遺跡調査研究年報」1・2 1984年

② 学生部男子学生寮改築工事に伴う発掘調査（津島北地区 AV00・01区）

調査の経過

男子学生寮改築に当たり、1986年6月に予定地周辺部において試掘調査を行った結果、縄文時代後期～中世の遺跡の存在が確認された<sup>(註1)</sup>。その中で、最も遺構密度が低いと考えられる南半の地区に建物の建設が決定し、本年度、発掘調査を実施することとなった。調査地点は岡山大学津島北地区北東隅、本学津島地区構内座標AV00・01区に位置する。発掘面積は1550㎡である。調査は1986年12月より開始し、1987年5月末日を終了予定として現在続行中である。

層序

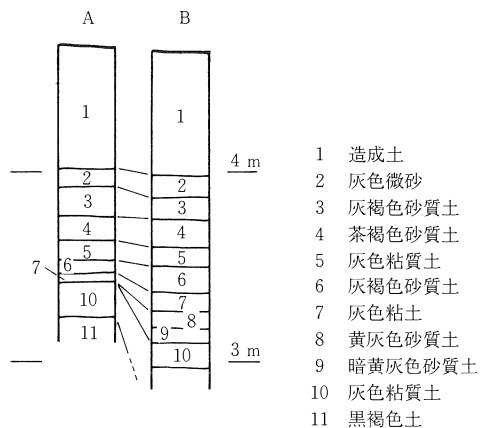
現地表面は標高約4.7mを測る。津島地区構内全域においてそうであるように、表土（1層）は、1907年、陸軍屯営地建設に伴う造成土である。その直下の2層は近代耕作土、そして、以下の各層の年代はいずれの層においても遺物は細片に限られているため、正確な年代比定は難しいが、3～4層は近世、5～6層は中世、7層は古代の耕作土と考えている。7層には須恵器片が混入しているが、型式からの年代比定は難しい。1987年3月末現在、8層上面を調査中である。11層は弥生時代前期以前に形成されたとされる黒褐色土層で、調査区縁辺に沿った截割観察によれば、調査区北東から南西方向へ標高3.2mをピークに尾根状の微高地を形成しており、その南辺及び北辺は谷状に落ち込んでいることがわかる。図5のAは微高地上、Bは低位部の土層図だが、10層の落ち込みが見て取れる。Bでは10層直下に11層が認められない。

遺構

2層上面から現在調査中の8層に至るまで、各層上面において水田址と思われる遺構を検出している。水田址の累層をどこまで細かに分層発掘するかは今後の課題だが、今回は時間的制約もあり、比較的明瞭に判別できた各土層の上面において遺構を検出する方法をとった。水田区画は2～7層までは基本的に四方方向に沿っている。遡上して行くと、5層上面での区画の細密化が際だっている。

尚、2～6層では、調査区北辺に条里坪境に沿うとみられる溝が、また、東辺には里境を画する可能性のある溝の一部が検出されており、岡山平野の条里制復元に直接係わる内容を含んでいる。

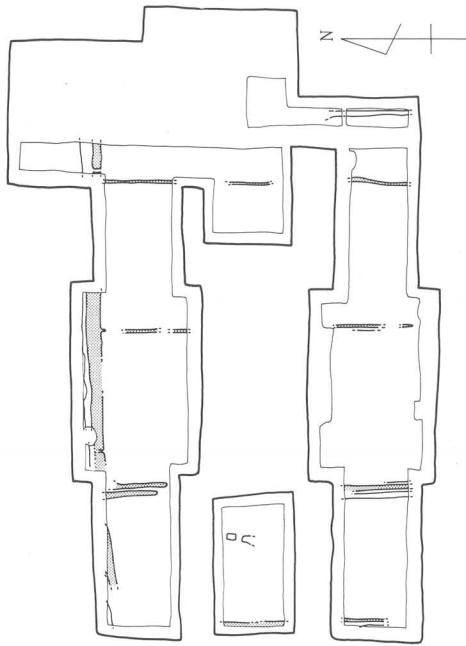
(石坂)



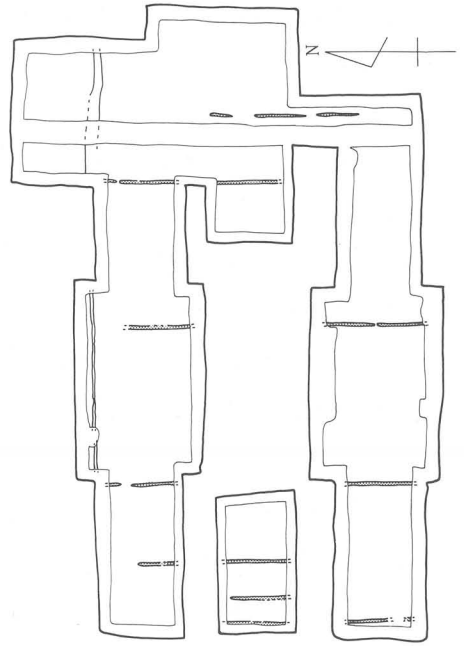
註1 岡山大学埋蔵文化財調査室「岡山大学構内遺

図5 土層柱状図 (縮尺1/40)

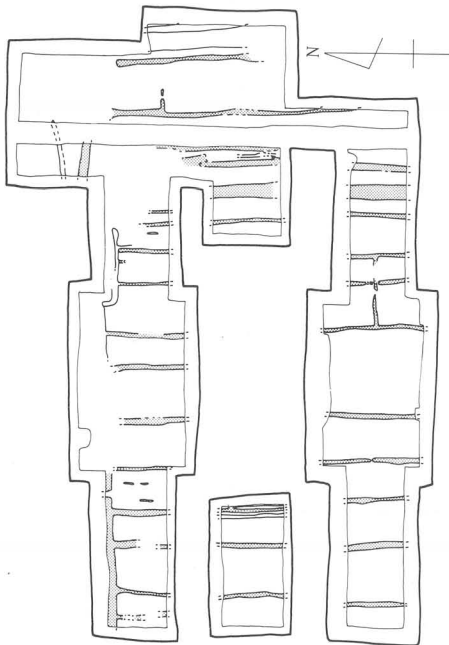




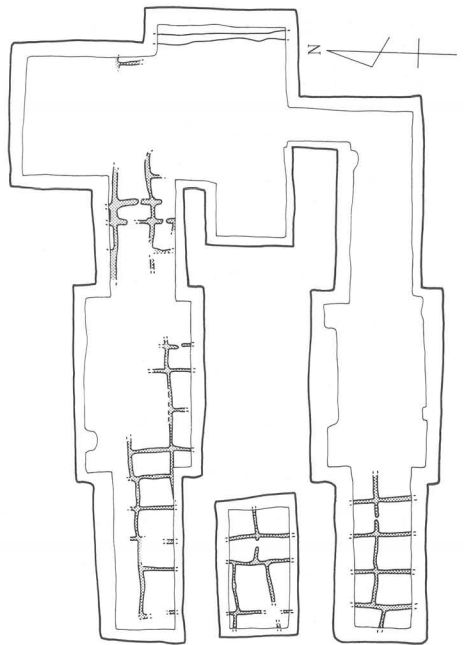
3層（近世）遺構検出状況



4層（近世）遺構検出状況



5層（中世）遺構検出状況



6層（中世）遺構検出状況

■ 畦畔部分

0 20m

図6 学生部男子学生寮予定地遺構配置図 (縮尺1/800)

③ 屋内運動場新営に伴う発掘調査 (津島南地区 B F・B G 09区)

調査の経過

調査地点は岡山大学津島南地区の東南部に位置し、本学津島地区構内座標に基づく地区割では、B F・B G 09区に当たる。調査は本地点に学生部屋内運動場の新営が予定されたため、まず1986年10月13～17日に埋蔵文化財確認のための試掘調査を行った(図7-A・B地点)。その結果、予定地内に弥生時代前期を主体とする遺物包含層が確認され、その上位には中世～近代の水田が残存することも認められた。この試掘結果を基に、建物工事の工法を掘削が近代水田層までに留まるものに変更するとともに、1987年1月12・19～22日にかけて、再度工事予定地点の発掘調査を実施した(図7-C地点)。

調査坑はA・B地点は約4.5m四方の正方形、C地点は東西約7m、南北約3.5mの長方形に設定した。調査は厚さ1.1m前後の造成土を機械によって除去した後、明治時代の旧水田土壌以下は手掘りで分層発掘を行った。調査は現地表面から2.3～2.4mの深さの無遺物層まで掘り下げ、調査坑壁面の写真撮影及び土層図作成を行った後、速やかに埋め戻した。

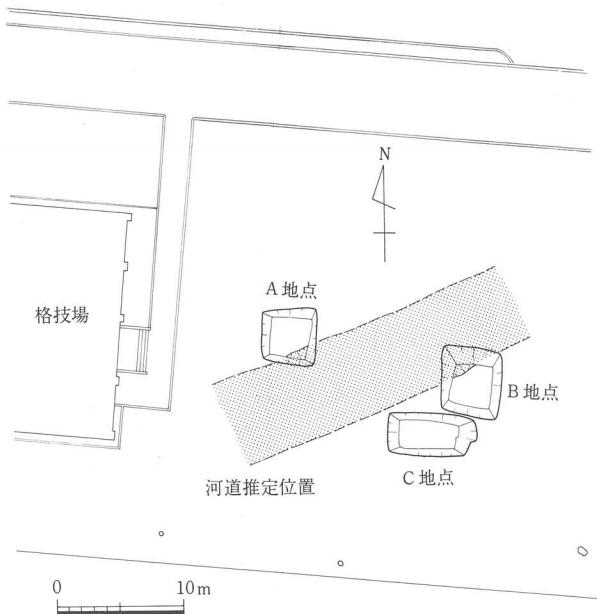
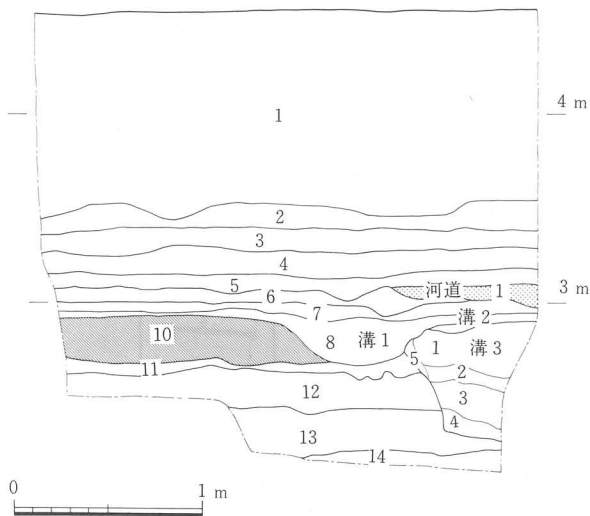


図7 調査坑位置図 (縮尺1/600)



- |     |           |     |         |           |
|-----|-----------|-----|---------|-----------|
| 1層  | 造成土       | 12層 | 暗灰褐色微砂土 |           |
| 2層  | 淡青灰色微砂土   | 13層 | 茶褐色微砂土  |           |
| 3層  | 淡茶褐色土     | 14層 | 黄灰色粘質土  |           |
| 4層  | 褐色土       | 河道  | 1層      | 灰色砂質土     |
| 5層  | 淡褐色砂質土    | 溝2  | 1層      | 淡黄灰色粘質土   |
| 6層  | 明灰色粘質土    | 溝3  | 1層      | 暗灰黑色粘質土   |
| 7層  | 橙灰色粘質土    |     | 2層      | 暗茶黑色粘質土   |
| 8層  | 灰色粘質土(溝1) |     | 3層      | 暗黒色粘質土    |
| 10層 | 暗黒色粘質土    |     | 4層      | 黄褐～暗黒色粘質土 |
| 11層 | 暗黒灰色微砂土   |     | 5層      | 灰色粘質土     |

図8 A地点東壁土層図 (縮尺1/40)

層序

現地表面の標高は4.5~4.6m前後を測る。

1層は層厚1.0~1.1m前後を測る。主に明治年間の陸軍屯营地造成の際に盛られた造成土である。2層（淡青灰色微砂土）は造成直前の旧水田土壌であり、以下の3~6層もその性状から水田土壌であったと推定される。これらの各層からの出土遺物は乏しく、さらに水田土壌と推定されることもあって、その堆積時期の限定は困難であるが、大きくは3層が近世、4~6層は中世に属するものとみられる。

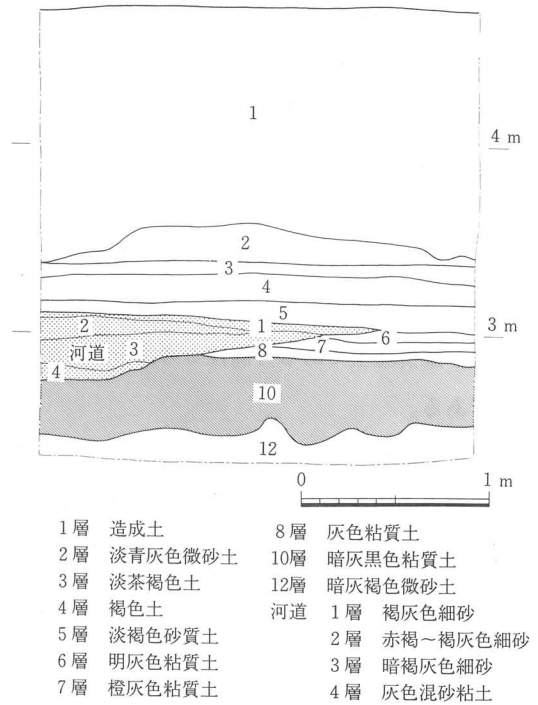


図9 B地点北壁土層図 (縮尺1/40)

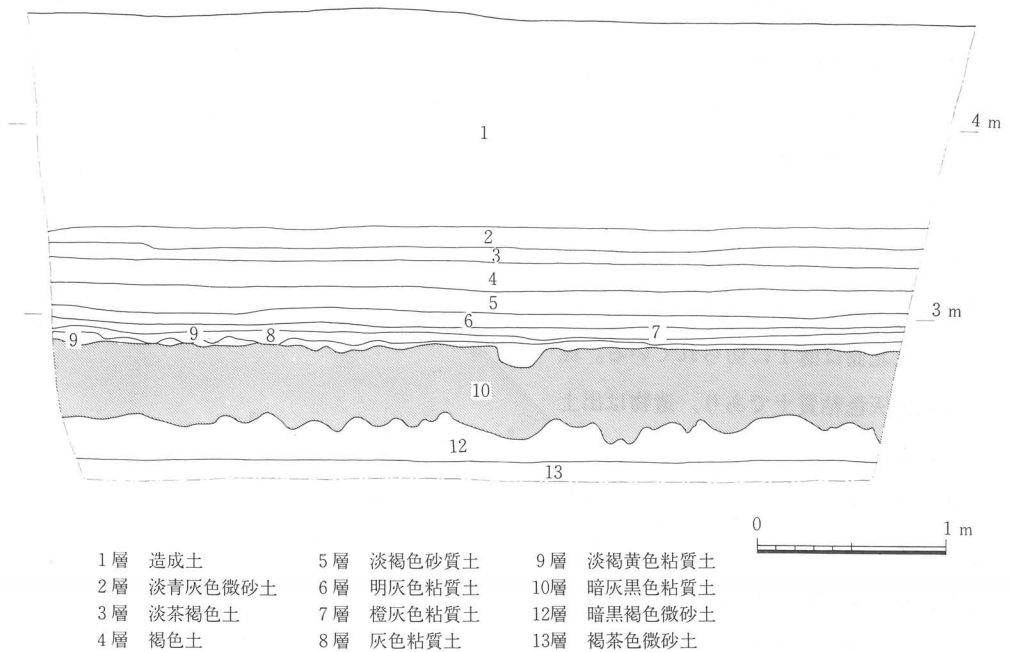


図10 C地点南壁土層図 (縮尺1/40)

なお、A地点東南部及びB地点北西部においては、主に砂を埋土とする6層上面からの落ち込みが存在している。落ち込み面が等しく、埋土も類似することから、両者は両地点の間を東北-西南方向に流れる溝状の落ち込みの相対する肩部に相当すると推定できる。この落ち込みはその立ち上がりが緩やかなことやその規模から中世の河道であったと考えられる（図8・9）。

7～9層は弥生時代の遺物包含層である。7・8層は水田土壌であった可能性があるが、今回の調査では確認できなかった。9層はC地点の南側のみが存在する厚さ4～7cm前後の薄層である。遺構埋土である可能性も考えられるが立ち上がりが明瞭でなく、現状ではその性格は不明である。

10層は無遺物の暗灰黒色粘質土である。本学津島地区周辺においては、ほぼ全域で認められ、過去の調査の知見から、その堆積の下限は縄文時代晩期～弥生時代前期と考えられる。A地点では、本層上面から掘り込まれた3条の溝が存在している（図8）。

11～14層は無遺物層である。

### 遺 構

今回の一連の調査では、中世の河道のほか、A地点の10層上面で弥生時代の溝3条（溝1～3）、C地点10層で性格不明の落ち込み4基を検出した（図11）。

溝1は幅約80cm、深さ約25cmを測り、西南-東北方向の方位を示す。埋土中からは弥生式土器の細片が少量出土している。

溝2は幅約18cm、深さ約4cmを測る小規模な溝である。溝1の南に隣接して存在し、東北側は溝1に切られている。埋土は淡黄灰色粘質土であり、遺物は出土していない。

溝3は溝1・2に切れられ、溝1にはほぼ平行する。西北側の立ち上がりのみを検出のため、その幅は不明であるが、深さは約65cmを測る。現状からは土壌等の可能性も想定できるが、溝1とほぼ平行す

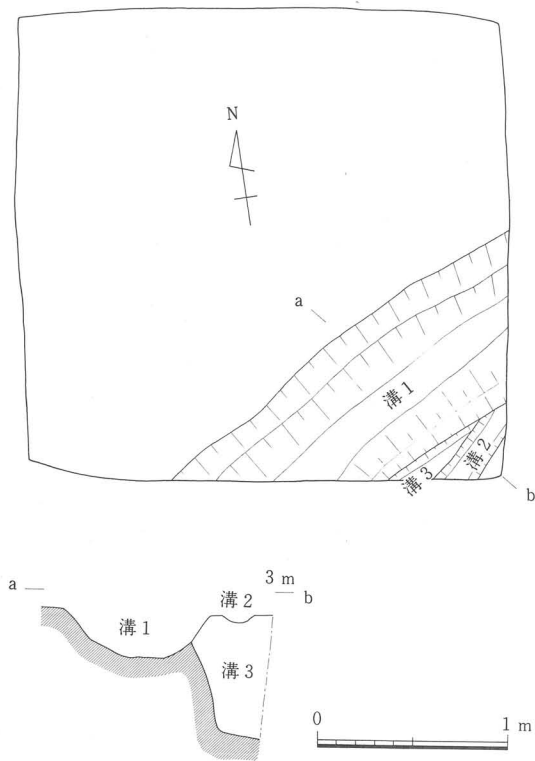


図11 A地点 溝1・2・3 (縮尺1/40)

るとみられることから、ここでは溝と判断した。埋土は5層に分かれるが、基本的に10層に類似している。埋土中からは弥生時代前期土器が少量出土している。

以上の溝はその検出面と出土遺物からいずれも弥生時代前期に属するものとみられる。

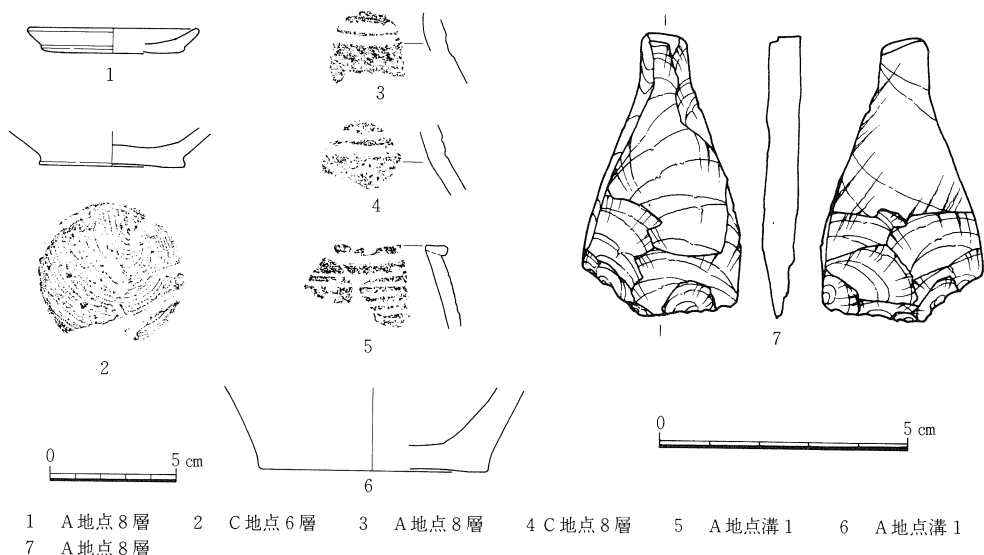
C地点の10層上面で検出した4基の落ち込みは径35~70cm前後の円形~楕円形プランを示すが、検出面からの深さが10~20cm前後と浅く、人為的な遺構であるかどうかは不明である。埋土は一般に9層に類似している。

### 遺物 (図12)

今回の一連の調査では、近世陶磁器、中世の土師質椀・小皿、弥生時代前期の甕・壺等が少量出土している。これらの土器類のほかにサヌカイト製の楔形石器1点、同剥片数点が出土している。

### まとめ

今回の一連の調査で検出した明確な遺構には、中世河道のほか、弥生時代前期の溝3条がある。これらの溝はほぼ同一地点に重複して存在するが、規模・形状等はいずれも異なり、各々の性格も現状では不明である。これらの溝の他には該期の遺物を少量含むに過ぎないことから、調査地点付近は該期の集落の周辺部に位置するものと推定される。弥生時代前期より後の調査地点周辺の状況は中世までは遺構・遺物の検出がなく詳細不明である。中世以降、調査地点一帯は水田化され、中世の一時期には河道が流走する場合もあったが基本的に水田は明治時代の陸軍屯営地造成まで継続して営まれたものと考えられる (栄)



1 A地点8層 2 C地点6層 3 A地点8層 4 C地点8層 5 A地点溝1 6 A地点溝1  
7 A地点8層

図12 屋内運動場出土遺物 (縮尺1/3・2/3)

### 3 試掘調査

本年度は2件の試掘調査を津島地区において実施した。その内、屋内運動場新営に伴う調査に関しては試掘調査後に発掘調査を実施したため、その報告については発掘調査の項において前述した。ここでは残りの1件、総合大学院新営に伴う調査の概要のみを述べたい。

#### 総合大学院研究棟新営に伴う試掘調査（津島北地区 AY・AZ07区）

調査地点は津島北地区AY・AZ07区に位置しており、東に教育学部、西に理学部校舎を望んでいる。今回の試掘調査は総合大学院研究棟の建設計画に対応し、埋蔵文化財の有無を確認するもので、現在、木造建物に囲まれ中庭状になっている空き地1120㎡を対象に3×3mの試掘坑を3箇所設定して実施した。期間は1987年1月13～22日である。試掘坑は西からA区、B区、C区と呼ぶ（図13）。

現地表は標高4.3～4.5m、1層（表土）は造成土で0.6～0.8mの厚みで全面に堆積している。2層は造成直前の耕作土で、上面に畝状の凹凸が認められた。3層は、2層との境に酸化鉄の沈着を挟み、また、酸化鉄の水平な帯によって、一見して2～3に分層出来る。B区で南北に走る畦畔状の遺構を検出しており、近世及びそれ以前の水田耕作土の累層と考えている。4層では、A・B区において5層直上から須恵器甕片が出土しており、古墳時代以降の堆積層とみられるが、さらなる限定は控えておく。B区では5層迄掘り込まれ

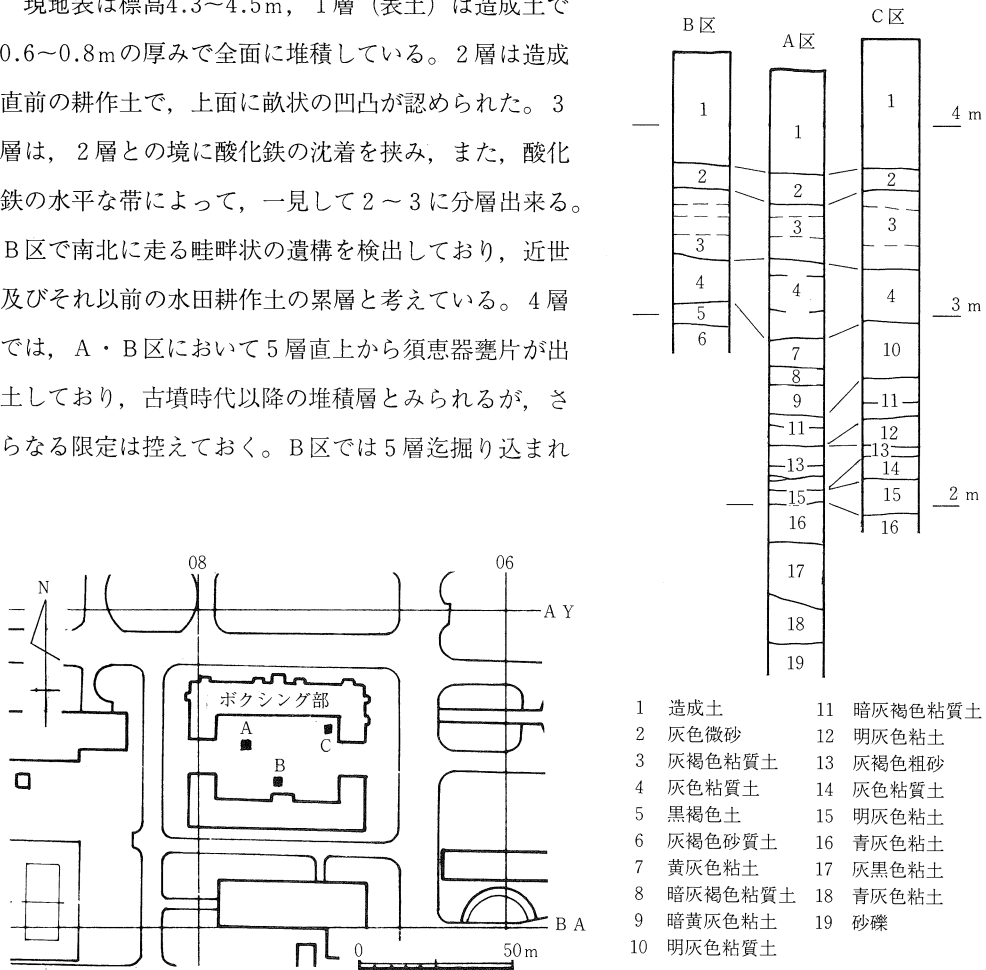


図13 調査配置図・土層柱状図（縮尺1/2400・1/40）

た遺構が確認された。

以下の層位では、B区とA・C区との間で状況が異なっている。

B区5層は、土質・色調ともに上層土と際だった対象をみせる。縄文土器片が247片出土しており、型式をおおよそ確認できるものは中期末と後期中葉に含まれる(図15)。遺構も存在するようだが、今回はその輪郭をつかむにとどめ、発掘は控えた(図14)。6層以下、B区では1m弱砂質土が堆積するが、掘り下げを一部に限った上崩壊が激しく、観察・記録とも満足に行えなかった。A区11層からも縄文土器片が28片出土した(図15)。以下、C区では土砂の崩落により調査が不十分だったためA区の記録によるが、13層以下砂層を挟みながら粘土が約1m堆積し、標高1.3mから下に砂礫層(19層)が堆積している。今回はその上面で発掘を止めた。尚、15層上面からも縄文土器片が1片出土している。

再び3区を通観すると、B区ではしまった砂質土上に5層が堆積する一方、A・C区においては5層が認められず、11層以下は、砂礫層に至るまで基本的に軟質の砂と粘土が堆積する。両者の対照から調査地南半は微高地、北半は低湿地にかかるものと思われる。そして、微高地上には縄文時代中期末から後期の遺構が展開する可能性が高い。ただし、B区では縄文時代の包含層である5層直上の4層から須恵器片が出土しており、少なくとも、微高地上では弥生時代～古墳時代前期の堆積層は失われているようである。

微高地と低湿地の入り組む景観は、現在調査中の学生部男子学生寮建設予定地でも窺うことができ、弥生時代以前における津島周辺の微地形は山際にあたりつつも単調なものではなかったと思われる。(石坂)

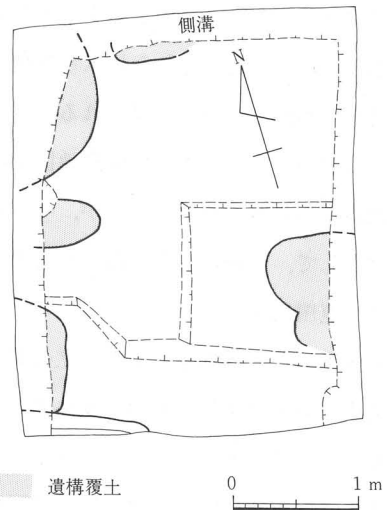


図14 B区5層遺構検出状況 (縮尺1/60)

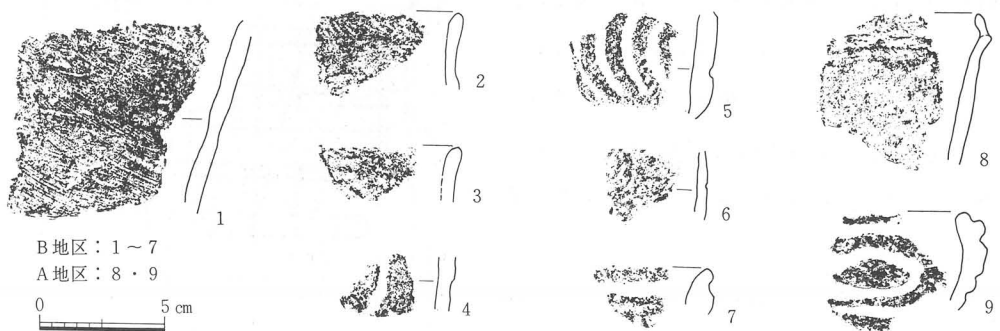


図15 出土遺物 (縮尺1/3)

#### 4 立会調査

本年度は合計22件の立会調査を行った(表1)。津島地区9件, 鹿田地区13件を数え, 津島地区での増加が目立った。

##### (1) 津島地区

津島地区においては, 9件の立会調査を行った。そのうち7件はB G 09区の発掘・試掘調査③(表1)周辺に集中している(図版3)。立会という制約上, 得られた知見はいずれも断片的だが, 発掘・試掘調査③地点東方50m, B G 08区東に位置する立会調査⑳(表1・図版3)では, 地表下1.7m(造成土を除いた2層上面から0.9m)掘削して, 試掘調査③地点の7層対応層までしか達しておらず, 黒褐色土上面は試掘調査③地点に比べ低位に落ち込んでいると推定される。微高地の東への限界を窺うことが出来る。

一方, 津島北地区A V 16・17区の立会調査㉑(表1)では深さ3.5m, 径0.4mの穴が10箇所を開けられたが, 水田土壌下は軟質の灰色粘土, 砂, シルト層が堆積し, 黒褐色土の存在は認められなかった。それらは水性堆積とみられ, A V 16・17区付近はかつて低湿地であったか旧河道にかかっていると思われる。

以上のように, かつて津島地区全域が開田される以前の微地形は高低乾湿を異にする様相が細かに入り組んでいたことが, 今年度の調査からも窺える。立会調査の広域的な積み重ねの代償として, 今後ともその復元を目標として行きたい。(石坂)

##### (2) 鹿田地区

鹿田地区では本年度13件の立会調査を行った。造成土以下に達したものは5件である(表1-⑥・⑨・⑬・㉓・㉔)。その内で, 医療技術短期大学部新営に伴う工事以外では医学部の調査⑨があるのみで, 調査は鹿田地区の東南部に集中した。医療技術短期大学部関係の調査の内⑥・⑬・㉓については, いずれも3層~4層上面までの掘削であり, 医療短大の発掘調査区にごく近接し, その調査結果と矛盾しないため省略した。ここでは立会調査⑨・㉔についてのみ報告したい。

医学部の調査⑨では外来診療棟と医学部記念会館の間を調査した。現地地表下80cmで中世包含層が確認された。比較的しっかりした土質で,

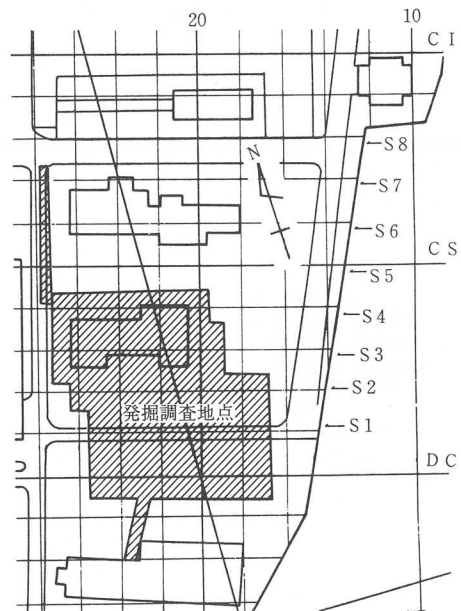
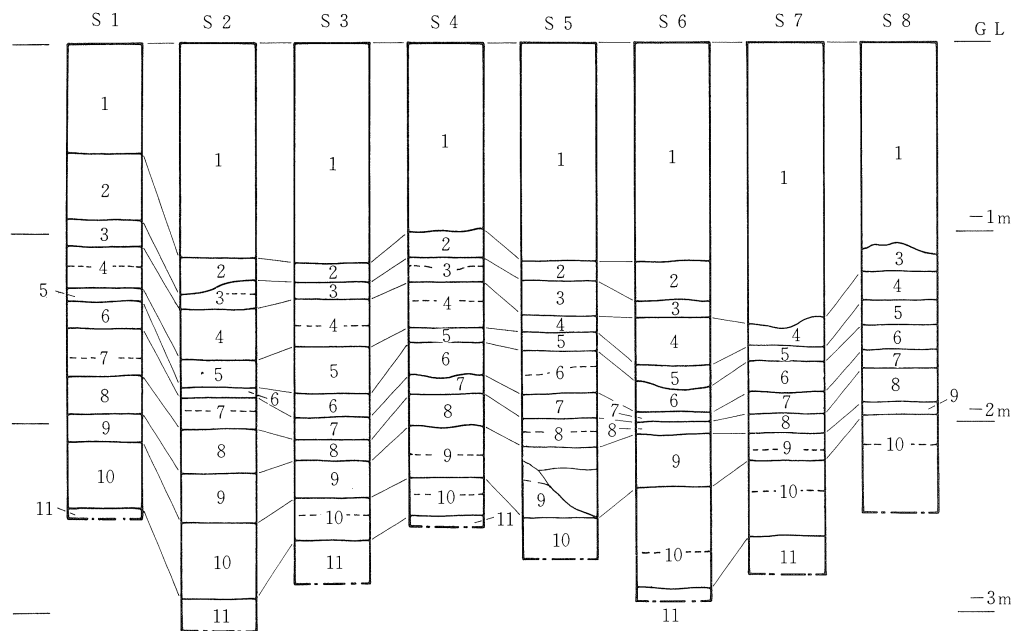


図16 立会調査⑳ 調査地点 (縮尺1/1800)



部分的に土器・炭化物の集中も認められ、遺構の存在する可能性が考えられた。

調査⑭は医療短大の発掘調査区の東側を南北に流れる用水路の護岸工事に伴うもので、長さ約80mの壁面調査となった。約10m間隔で8箇所の柱状断面図を取った。その結果、図16のような状況が確認された。医療短大の層序と比較検討してみると、1～7層については全く共通し、医療短大の8層と9層が、ここでの8・9層と10層とに各々対応する。そして、医療短大の11層、つまり灰色粘土と砂がラミナ状を呈す層は認められなかった（図17）。以上のことから、医療短大の発掘調査区北半の高い部分と同じ状況下にあることは明瞭である。CZライン以南にみられた地形の落ち、あるいは南端の自然河道はS1地点の南側を走ると考えられる。また、S1地点からS8地点の中ではS2～S7地点の部分が各時期を通じて低い地形を呈す。そして、S8地点から北に向かって地形が高くなる可能性がある。（山本）



- |                    |                    |              |
|--------------------|--------------------|--------------|
| 1層 造成土             | 5層 暗茶褐色土 (Mn 含む)   | 9層 灰色粘土      |
| 2層 黄灰色土            | 6層 暗黄褐色粘質土 (Fe 含む) | 10層 暗灰色粘土    |
| 3層 黄褐色土 (Fe・Mn 互層) | 7層 暗灰色粘土           | 11層 暗灰色細砂混粘土 |
| 4層 黄灰色土 (ク ク)      | 8層 淡灰色粘土 (微砂含む)    |              |

図17 立会調査⑭ 土層柱状図 (縮尺1/40)

## 5 分布調査（図版1）

調査室では、大学構内の遺跡保護と研究、そして、工事計画などに対する迅速な対応、それらを両立させるためには大学敷地内における遺跡の現状をより正確に把握し、概要を掴む必要があると考え、分布調査計画を立てた。その予備調査として、本年度は津島地区の北側に位置する半田山山塊の調査を11月18～19日の2日間で行った。調査員は石坂・松岡・保田・山本の4人が2班に分かれ、1日づつを担当した。

敷地内における周知の遺跡では、e：ダイミ山古墳、f：古墳、g：半田山城、j：烏山城（笹迫城）、k：七ツ坵古墳群を確認した（図版1）。その内、七ツ坵古墳群については岡山大学考古学研究室が発掘調査を行っている。また、ダイミ山古墳・半田山城では非常に良好な保存状態が認められ、特に、半田山城については将来的に測量を実施する計画を立てている。fの古墳・烏山城については、状況を確認するには繁茂した下草・灌木等のため不十分な状態であった。

また、全体的に下草・樹木などが多く新たな遺跡確認は非常に困難であったが、周知の遺跡以外ではA～C地点（図版1）において古墳群の存在の可能性が認められた。

今回の調査は本格的な分布調査に向けての予備調査であり、半田山山塊の現状把握を目的とした短期間のものであったが、新たな遺跡の存在を予想させる状況や測量の必要性の高い遺跡の確認など、本格的調査の具体的計画にとって有意義な調査結果を得ることが出来た。（山本）

## 第3章 1986年度普及・研究活動

### 1 資料整理

本年度は次の2件の発掘調査の資料整理を行った。

- ① 鹿田遺跡（医学部附属病院外来診療棟改築及びNMR-C T新築に伴う発掘調査）
  - 5月17日 三宅寛氏（岡山理科大学教授）に石材鑑定依頼・持参
  - 5月27日 畔柳鎮氏（岡山商科大学教授・岡山大学名誉教授）木器の樹種鑑定のため来室
  - 1987年1月 整理作業終了
  - 1987年度に報告書刊行予定
- ② 鹿田遺跡（医療技術短期大学部新設に伴う発掘調査）
  - 発掘調査終了後、室内作業員2名によって遺物の洗浄から復元までの作業を実施
  - 山本悦世が担当

### 2 刊行物

- ① 岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1985年度  
1987年3月31日 発行

### 3 調査員の活動

#### (1) 資料収集活動

- 石坂俊郎 〈弥生時代後期～古墳時代初頭の土器を中心に〉  
愛知県文化財センター  
豊橋市教育委員会 他
- 栄 一郎 〈石器を中心に〉  
奈良・京都・大阪 他
- 山本悦世 〈弥生時代後期～古墳時代初頭の土器を中心に〉  
兵庫県教育委員会  
香川県教育委員会 他
- 〈中・近世土器を中心に〉  
福岡市教育委員会 他

(2) 資料報告他

- 山本悦世 小田嶋梧郎共著「岡山市鹿田地区出土・弥生時代の左側上・下第三大臼歯」  
岡山歯学会雑誌 第5巻, 第1号, 13-18, 1986  
岡山県史「鹿田遺跡」岡山県史編纂室 1986  
毎日グラフ「ガラス製造」1987

4 日誌抄

- 4月3～8日 調査室の収蔵施設として借用していた旧精神科棟が医療技術短期大学部  
新設に伴い取り壊されるため、医学部附属病院管理棟の続きに引越しを  
行う。
- 5月17日 三宅寛氏（岡山理科大学教授）に石器鑑定依頼
- 5月21日 旧精神科棟解体工事開始
- 5月23日 医療技術短期大学部新設予定地造成土掘削開始（立会）
- 5月27日 畔柳鎮氏（岡山商科大学教授・岡山大学名誉教授）木器の樹種鑑定のた  
め来室
- 6月2日 医療技術短期大学部予定地の発掘調査開始  
調査員：栄・松岡・保田・山本  
調査補助員：青木・伊藤・八谷・宮原
- 7月7～31日 大橋雅也氏（岡山大学院生）医療短大予定地の発掘調査に参加協力
- 7月7～20日 絹川一徳氏（ ） 〃 〃 〃 〃
- 7月21日 岡山大学博物館学実習生120名の受け入れ開始  
15～20名づつ発掘調査参加及び遺物整理を実習
- 8月22日 埋蔵文化財保護対策検討専門委員会開催（事務局にて）
- 8月28日 影山詳弘氏（岡山大学農学部助教授）土壌採集のため来室
- 8月21日 岡山大学博物館学実習終了
- 9月1日 石坂俊郎助手着任，医療短大予定地の発掘調査に参加
- 9月19～25日 上智大学生1名博物館学実習のため発掘調査参加
- 10月13～17日 屋内運動場予定地試掘調査  
調査員：栄
- 10月31日 医療技術短期大学部本体工事部分の発掘調査終了
- 11月4日 〃 共同構部分発掘調査開始  
調査員：松岡・山本

- 11月18～19日 半田山山塊分布調査  
調査員：石坂・松岡・保田・山本
- 11月21日 石坂，医療短大共同構部分の発掘調査に参加
- 11月28日 学生部男子学生寮予定地造成土掘削開始  
調査員：栄
- 11月29日 医療短大共同構部分発掘調査終了
- 12月1日 室内作業員2名による医療短大予定地発掘調査出土品の整理開始
- 12月15日 石坂・保田，男子学生寮予定地発掘調査参加
- 12月27日 御用納め
- 1987年
- 1月5日 御用始め
- 1月12日 鹿田遺跡Ⅰ（医学部附属病院外来診療棟改築・NMR－CT室新営に伴う発掘調査）の報告書整理終了，印刷の打ち合せのため事務局用度係に持参  
担当：山本
- 1月16日 松岡，男子学生寮予定地発掘調査参加
- 1月19～23日 屋内運動場予定地試掘調査  
調査員：栄
- 1月13～22日 総合大学院予定地試掘調査  
調査員：石坂
- 2月24日 会計監査
- 2月24～27日 栄出張
- 3月4日 年報3の印刷打ち合せ  
担当：山本
- 3月4～6日 石坂出張
- 3月9～12日 山本出張
- 3月16日 コンピューター導入
- 3月24日 送別会（青木・伊藤・宮原・栄・保田）
- 3月26日 山本，男子学生寮予定地発掘調査参加
- 3月30日 保田退職（津山市教育委員会へ）
- 3月31日 栄退職（秋田県埋蔵文化財センターへ）  
年報3発行

(山本)

## 第4章 1985年度までの活動と1986年度遺物保管状況

## 1 1985年度までの岡山大学構内主要調査

1985年度までの岡山大学構内における調査については、調査室設立以前（1980～1982年度）と設立以後（1983～1985年度）とに分けて、表2・3に挙げた。発掘・試掘調査については全てを、そして、立会調査については主要なもののみを対象としている。

表2 1982年度以前の構内主要調査（1980～1982年度）

年度	遺跡名 調査地区名	種類	所属	調査名称	調査組織	調査面積 (㎡)	文献	備考
1980	鹿田	立会	歯	同附属病院棟新築工事	岡山市教育委員会	8.0		
1981	津島南 BD 26	〃	農	寄宿舎新営工事	〃			
	津島北	〃	文法 経	合併処理槽埋設工事	〃			
	津島南 BD 09 BC 09～11	〃		基幹整備工事 (共同溝取付)	〃			
	津島南 BD～BE 04～07	〃	学生	陸上競技場改修工事 (配水管埋設)	〃			
	鹿田	〃	医病	高気圧治療室新築工事	〃			
	〃	〃	〃	動物実験施設新築工事	〃 岡山県教育委員会			試掘調査をせず破壊 残存壁面等の調査
	〃	〃	〃	病理解剖体臓器処理保管 庫新築工事	岡山市教育委員会			
	〃	〃	医	運動場改修工事	〃			
1982	津島 AV 06・10 AW 05・14 AX 08, BD 07 BE 10	試掘		排水基幹整備工事	〃			津島 AW 14区で弥生時代包含 層を確認、協議
	小橋法目黒 津島北 AW 14	発掘	法文	排水管集中槽(NP-1)埋 設工事	岡山大学	24.0	3	
	津島南	試掘	学生	武道館新築	岡山市教育委員会	2.3		
	津島北 AY 15・16	〃	法経	校舎新築工事	〃	7.0		
	鹿田	〃	医	標本保存庫新築工事	岡山県教育委員会	8.0		
	〃	〃	医病	外来診療棟改築工事	〃 岡山市教育委員会	4.0	2	
	〃	立会	医	動物実験施設関連排水 管・ガス管理設工事	岡山県教育委員会		1	
	鹿田 AE～AN 22 AE 22～26	〃	歯	電話ケーブル埋設工事	〃 岡山市教育委員会 岡山大学埋蔵文化 財調査室			

- ※文献 1 光永真一「岡山大学医学部附属病院動物実験施設新営工事に伴う排水管付設工事に伴う立会調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 1983 岡山県教育委員会  
2 河本清「岡山大学医学部附属病院外来診療棟改築に伴う確認調査」『岡山県埋蔵文化財報告』13 1983 岡山県教育委員会  
3 本年報 表4-⑥に対応する。

表3 1985年度以前の構内主要調査 (1983~1985年度)

表3-(1) 発掘調査

年度	調査地区名	所属	調査名称	期間	面積(m <sup>2</sup> )	備考	文献
1983	鹿田 AU ~ BD 28~29	医病	外来診療棟改築工事	7.27~11.22 '84.1.9~3.31	2188	弥生時代中期後半~中・近世集落址	④
	◇ BG ~ BH 19~21	◇	NMR-CT室新築工事	8.1~12.30	176	弥生時代後期~中世集落址	④
	津島南 BE 14・18 BF 17・18, BG 14 BH 14・15	農	排水管理設工事	'84.1.9~3.5	265	縄文時代晩期~弥生時代前期集落址	⑦
	◇ BH 13	◇	合併処理槽埋設工事	11.14~11.22 '84.1.9~3.5	276	◇ ~ ◇	⑦
1984	鹿田 AU ~ BD 28~29	医病	外来診療棟改築工事	4.1~8.31	2188	弥生時代中期後半~中・近世集落址	⑤

表3-(2) 試掘調査

年度	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度(m)	備考	文献
1983	津島南 BH 13	農	合併処理槽予定地	2.5	弥生時代前期土器片, 1983年度発掘調査	⑦
	◇ BE ~ BG 14 BE・BH 15 BF 16・17 BE・BF 18	◇	排水管理設予定地	2	◇ , ◇	⑦
	◇ BF 17	◇	排水管中間ポンプ槽予定地	3.5		④
	◇ BF 22・23	◇	農場畜舎新築予定地	2~3	土器片出土, 造成土0.6m	④
	◇ BC・BD 15	事務	大学事務局改築予定地	◇	◇ , ◇ 0.9m	④
	◇ BB 10	学生	保健管理センター改築予定地	◇	溝検出, ◇ 0.8m	④
	◇ BI 16	事務	津島宿舎改築予定地	2	土器片出土, ◇ 0.9m	④
	津島北 AW 05	工	校舎増築予定地	3	◇ , ◇ 1.0m	④
1984	鹿田 BT 29・30	医病	西病棟北側受水槽予定地	1.4	中世土器・包含層確認, ◇ 0.5~0.7m	⑤
	◇ CU 23, CZ19・24	医短	医療短期大学部新営予定地	2.7	中世・古代の遺物出土, 1986年度発掘調査	⑤ ⑨
1985	津島南 DE 08	教養	議義棟予定地	3.5	遺構・遺物未確認, ◇ 1.2m	⑧
	津島北 AX 02	教育	研究棟予定地	2.6~3.4	縄文~弥生時代土器出土, ◇ 1.2m	⑧
	◇ AV ~ AW 99~01	学生	男子学生寮改築予定地	2~3	◇ ~中世の遺構・遺物, 1986年度発掘調査	⑧ ⑨
	鹿田 AI 33, AJ・AK 26 AH・AI 40~41	医病	外来診療棟環境整備工事に先立つ範囲確認調査	2.2~3	弥生~中世の遺物, ◇ 0.9~1.4m	⑧

※文献番号は表4に対応, また, 文献番号⑨は本年報4に対応する。

表3-(3) 立会調査

年度	調査地区名	所属	調査名称	掘削深度(m)	備考	文献
1983	東山	教育	附属中学校改築予定地	4~5	シルト層中	④
	鹿田 AR 38, BC 40	医病	外来診療棟及び旧耳鼻科棟基礎杭保存状況確認調査	2.5~3		④
	津島北 AX 15	文	中庭水銀燈地下ケーブル埋設工事	0.7	造成土中	④
	鹿田 AX 23	医病	旧中央診療棟埋設給水管修繕工事	1	◇	④
	◇ AL 32	◇	外来診療棟シールド取付に伴うアース線埋設工事	2		④
	◇ AM ~ BB 39 ~ 41	◇	旧耳鼻科棟水道管修繕工事			④
	◇ BC 38~42	◇	プール周辺植樹作業	0.7	造成土中	④
	◇ AO ~ AY 22	◇	外来診療棟蒸気配管埋設工事	1.3	弥生後期土器(分銅形土製品), 貝集積	④
	津島南 BC ~ BF 18	薬	周辺排水用集中棟埋設工事 水道管埋設工事	2.5 1.5		④
	津島北 BA 13	事務	西門橋梁改修工事	2.6		④
	鹿田 BH 17~18	医病	混合棟北側ガス管理設工事	1	造成土中	④
1984	鹿田 BG ~ BH 17~19	医病	NMR-CT室新設関係排水施設取付工事	0.6~1.5		⑤
	◇ BD ~ BH 64	医	旧基礎医学棟中庭駐車場整備工事	0.8		⑤
	津島北 AW・AX 11 AZ・BA 12・13	情報	総合情報処理センター 通信用管路埋設工事	0.7~1.4	造成土0.9~1.2m	⑤
	鹿田 AE 37	医病	外来診療棟改築関係電柱架設工事	1.95	◇ 1.25m	⑤
	◇ BQ 33	◇	中診北病棟外来リハビリ一室医療機器用取付工事	1.6	◇ 1.5m	⑤
	◇ BS・BT 21・22	◇	厨房棟東側埋設ガス管修繕工事	0.8	造成土中	⑤
	◇ DB 29	◇	看護婦宿舍前水道管修繕工事	2.0	中世包含層確認, 中世・弥生式土器出土 造成土1.15m	⑤
	津島南 BI 16	事務	非常勤講師宿泊施設新営工事	1.6	◇ 1.0m	⑤
	◇ BI 15	◇	南宿舍合併処理槽取付工事	2.0		⑤
	◇ BI 15~17	◇	南宿舍合併処理槽関係配水管埋設工事	1.0~2.2	溝・土壌検出, 須恵器・弥生式土器出土 造成土1.0m	⑤
鹿田 BA ~ BB 15~23	医病	外来診療棟関係ガス管引込み工事	1.2~1.4	ほとんど造成土	⑤	
1985	鹿田 AX ~ BF 23 BG・BH 24・25	医病	外来診療棟関係屋外排水管理設工事	1.3~1.7		⑧
	◇ CS 68	◇	看護学校構内水道メーター取設工事	1.0	造成土中	⑧
	◇ AN ~ AS 42他	医	基幹環境整備給排水その他工事	1.0	近世土器溜り検出, 造成土0.8m	⑧
	鹿田 AT ~ AV 40 BA 35~43	医病	基幹環境緑化工事, 外来診療棟西	1.1	中世包含層確認, 造成土0.8m	⑧
	◇ AK・AL 34~39 AM ~ AR 39 AG・AI 34~38	◇	◇, 外来診療棟北	1.1	◇, ◇◇	⑧
	◇ BB 22他	◇	基幹環境整備給排水その他工事	1.15	造成土1.0m	⑧
	津島北 AV 06-07	工	三次元棟新設関係排水管理設工事 三次元棟建設	1.5~1.7	土器細片出土, 造成土1.0~1.5m	⑧

※文献番号は表4に対応する。



## 2 1985年度までの刊行物（表4）

埋蔵文化財調査室のこれまでの刊行物としては、発掘調査報告書2冊・年報3冊のほかに現地説明会に伴う資料3部があげられる。詳細は表4の通りである。

表4 埋蔵文化財調査室刊行物

番号	名 称	発行年月日
①	岡山大学構内遺跡現地説明会資料 (医学部附属病院外来診療棟およびNMR-CT室予定地)	1983年10月19日
②	岡山大学構内遺跡現地説明会資料 (農学部 排水基幹整備関係)	1984年2月25日
③	岡山大学構内遺跡現地説明会資料 (医学部附属病院外来診療棟予定地)	1984年5月19日
④	岡山大学構内遺跡調査研究年報1 1983年度	1985年2月28日
⑤	岡山大学構内遺跡調査研究年報2 1984年度	1985年3月30日
⑥	岡山大学津島地区小橋法目黒遺跡 (AW14区) の発掘調査 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第1集	1985年5月7日
⑦	岡山大学津島地区遺跡群の調査Ⅱ (農学部構内BH13区他) 岡山大学構内遺跡発掘調査報告 第2冊	1986年3月31日
⑧	岡山大学構内遺跡調査研究年報3 1985年度	1987年3月31日

## 3 1986年度までの遺物収蔵量および保管施設

### (1) 遺物収蔵量 (表5)

1986年3月31日における埋蔵文化財調査室の遺物収蔵量は、鹿田遺跡 (医学部附属病院外来診療棟改築予定地・NMR-CT室新営予定地) : 726箱, 同遺跡 (医療技術短期大学部新営予定地) : 120箱, 農学部合併処理槽・排水管理施設予定地 : 18箱, 学生部男子学生寮改築予定地 : 20箱, 試掘調査 : 4箱, 立会調査 (1983~1986年度) : 5箱, 総計893箱を数える。詳細は表5に挙げた。木器のなかで大型水槽に保管のものについては容量が約30ℓのコンテナに換算して計算している。

### (2) 保管施設 (図18)

1985年度までの使用施設は調査室設立当初から借用の医学部旧基礎医学棟内の一室 (約55㎡) と鹿田地区構内南東隅の医学部附属病院旧精神科棟内の一部 (約150㎡) であった。その内、旧精神科棟部を遺物・器材等の保管及び資料整理に当てていたが、その棟が医療技術短期大学部校舍新営に伴い解体されることとなり移転を余儀なくされた。そこで、医学部附属病院の管理棟として使用されている建物の一階西半部を借用することとなり1986年4月に移転作業を行った。管理棟内の使用面積は292.3㎡を測り、医学部内の一室を合せて調査室の使用総面積は347.3㎡となった。

(山本)

表5 埋蔵文化財調査室収蔵遺物概要

所属	種類	地 区 調 査 名 称	箱 数						備 考 主要時期・特殊遺物	文 献
			総数	土器	石器	木器	その他	サンプル		
医病	発掘	鹿田 NMR-CT室	116	90	3	20	1 ガラス 器 鉄 銅 鍍 他	3	弥生後期～中世 田舟・木簡等	④
〃	〃	鹿田 外来診療棟	610	491	6	60		52	弥生中期～中・近世 短甲状・權状木器等	④ ⑤
農	〃	津島 合併処理槽 排水管工事	18	7 6	1			4	縄文晩期～弥生前期	⑦
医短	〃	鹿田 新校舎	122	30		90		2	古代～中世, 杭等	⑨
学生	〃	津島 男子寮	20	20					中・近世	⑨
医病	試掘	鹿田 駐車場	1	1					弥生～中生	⑧
学生 教育 教養	〃 〃 〃	津島 男子寮 〃 研究棟 〃 講義棟	1	0.7	0.3				縄文後期～弥生前期	⑧
学生	〃	津島 屋内運動場	1	1					縄文晩期～弥生前期	⑨
理	〃	津島 総合大学院	1	1					縄文後期～弥生前期	⑨
全学	立会	'83年度	2	2					分銅形土製品	④
〃	〃	'84年度	1	1						⑤
〃	〃	'85年度	1	1						⑧
〃	〃	'86年度	1	1						⑨
総 箱 数			895							

\*文献番号は表4の番号に対応する。 文献⑨は本年報4を指す。

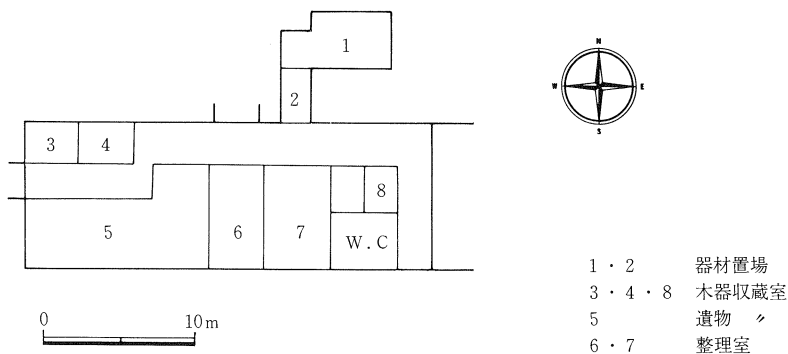


図18 新保管施設利用状況 (縮尺1/500)

## 第5章 1986年度構内遺跡の調査および活動のまとめ

本年度の活動は発掘等の主要調査が5件（発掘調査3件，試掘調査2件）および分布調査1件のほかに遺物収蔵施設の移動・年報3の刊行等がある。

主要調査としては医療技術短期大学部校舎新営に伴う発掘調査（鹿田地区）・学生部男子学生寮改築に伴う発掘調査（津島地区）・屋内運動場建設に伴う発掘及び試掘調査（津島地区）・総合大病院新営に伴う試掘調査（津島地区）があり，調査件数の多い1年であった。

鹿田地区ではこれまでほとんど未調査であった構内東南部において調査を実施した。その結果，構内東南部においても古代末～中世には集落が形成されていること，また，調査区の南端部には出土遺物から古代（8～9世紀）に属すると考えられる河道が水利施設を伴って存在したことが確認された。こうしたことから鹿田遺跡内において少なくとも古代以前には当地域が長期間低湿地的様相を呈していたことが想定される。

津島地区での調査は4件に及び，構内東半地域の東北部・南端部・ほぼ中央と広範囲にわたって調査を行った。その結果，学生寮の発掘では条里制に係わる遺構等の検出，その他の調査では弥生時代前期～縄文時代晩期の遺構の存在，そして一部では縄文時代後期に遡るものも確認された。

以上の結果，鹿田地区ではほとんど全域に古代末以降の遺構が広がり，また，津島地区においても全域に縄文時代以降の遺跡が点在する可能性が認められ，学術的意義の他に，今後の建設工事に際し，埋蔵文化財保護上の対応策を検討するのに有意義な資料となった。

次に，分布調査は，破壊を前提とした事前調査ではなく，構内遺跡の現状把握を目的とした調査室の自主的な調査として初めて実施した。具体的には，半田山山塊・本島・三朝地区等の飛び地的地区を対象とした調査の2ヶ年計画を立てるための予備調査であり，本年度は半田山山塊の分布調査を行った。特に，古墳・半田山城址の保存状況を確認し本調査計画の資料を得た。今回のこうした試みは調査室がこれまでの受動的な調査に追われるだけの状態から脱し，少しでも構内遺跡保護と建物建設の狭間を円滑にする上で貴重な活動と考える。今後，こうした調査室の自主的活動を可能な限り進めて行くことが大事であろう。

ところで，今回の建物の収蔵施設移動は2度目であるが，ここも借り住まいで，建物の解体に伴い数年後には再び移動を余儀なくされている。そのたびに遺物の破損・資料の散在は避けられない。年々増加する遺物・資料に対応するだけの恒久的建物の早急な確保が望まれる。

最後に，室員については，調査員の栄（秋田県埋蔵文化財センター）・保田（津山市教育委員会），補助員では室設立当初から勤務の学生4名の大学卒業に伴う転出があり，新・旧交替の目だつ1年であった。来年度から新たな気持ちで体制作りに向かいたい。（山本）

